

第5・6学年 国語科学習指導案

日時 平成20年10月10日(金)5校時
場所 5・6年教室
児童 5年生 男子0名 女子1名 計1名
6年生 男子2名 女子0名 計2名
指導者 秋田尚士
サポート 大里由美

《5年生》

1 単元名

意見を整理しながら、目的に向かって話し合おう
「失敗をめぐって」 (光村図書 下)

2 単元設定の理由

(1) 児童について

これまでに、児童は、4年生で「話し合って決めよう」を学習し、意思決定のための話し合いを経験している。ここでは、「①意思決定をするために解決しなければならない問題は何か。②問題解決の条件や糸口はどこにあるか。③自分たちの話し合いはかみ合っているか。」の3つを意識しながら活動してきた。5年生になり、1学期教材「インタビュー名人になろう」では、目的に沿って尋ねることや整理し、相手に分かりやすく話したり、答えを正確に聞いたりすることを学習した。朝の会では曜日ごとにテーマを決めて、用意してきた発表メモをもとにスピーチをしている。

(2) 単元について

学習指導要領における第5学年及び第6学年の「話すこと・聞くこと」の目標は、「目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。」である。本単元「意見を整理しながら、目的に向かって話し合おう」では、「失敗」に対して自分の体験や意見を交流し、解決策を話し合う。そのためにも、失敗はだれもがするという立場に立って失敗を出し合えるようにしていきたい。お互いの失敗を共有することで、失敗の繰り返しを回避したり、失敗を小さくしたりする知恵を出していきたい。失敗というだれもが体験することを題材にすることで、一人では考え付かない案が生まれる。また、話し合うことで新しいものの見方や考え方を手に入れることができ、お互いの理解が深まる。このような体験を積み重ねることで「話し合ってよかった。」という体験を積み重ねていきたい。

(3) 指導にあたって

本単元での学習活動は、三つに分けられる。一つ目は教材を読み、話し合いの手順をつかみ、それぞれの失敗談を語り合うこと。ここでは失敗は誰にでもあるという立場にたち明るく話せる雰囲気を作りたい。二つ目は、それぞれの失敗談をカードに記入しながら分類・類型化していく。三つ目は、失敗を「成功のもと」にするための方法を

《6年生》

1 単元名

聞き手の心に届くように発表しよう
「今、わたしは、ぼくは」 (光村図書 下)

2 単元設定の理由

(1) 児童について

これまでに、児童は、3年生では「分類」ということ、4年生では「伝え合う」ということ、5年生では「人と『もの』との付き合い方」を学習し、人前で発表することについて学習してきた。そして6年生になり、「学級討論会をしよう」を学習してきた。本教材は、これまでの話す活動の「まとめの段階」にあたるといえる。6年生になり、1学期教材「学級討論会をしよう」では、相手が分かるように整理しながら、自分の考えを発表することを学習した。朝の会では曜日ごとにテーマを決めて、用意してきた発表メモをもとにスピーチをしている。

(2) 単元について

学習指導要領における第5学年及び第6学年の「話すこと・聞くこと」の目標は、「目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。」である。本単元「聞く人の心に届くように発表しよう」は、二学期もあと約2ヶ月余りとなり、中学進学への意識が見られてきたこの時期に小学校生活への思いを振り返り、本人にしか分からない気持ちや考えの変化を言葉に表すことで、聞く人の心に届くような発表にしていこうとする単元である。また、このような活動を通して、これまでの小学校生活を振り返り、残りの小学校生活を有意義なものにしようとする児童の意欲を高めていきたいと考える。

(3) 指導にあたって

本単元での学習活動は、三つに分けられる。まず一つ目は、これまでの生活を振り返らせ、忘れられない出来事を思い出させる。ここでは、過去を振り返るだけでなく、何年後かの自分についても考えてもよいことにしたい。二つ目は、話題を決め、構成を考えていく。スピーチにむけて適切な話題を決め、個性的な題を考えていく。これまでの学習をもとに創意工夫できるようにしたい。構成を考える時は、「初め・中・終わり」の三部

話し合うこと。ここでは分類・整理されたカードをもとに改善に向けた、方向性のある話し合いをさせていきたい。失敗を回避する知恵を考えさせていきたい。失敗を恐れず、また失敗をきちんと見つめることにつながると考える。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

○話し合いの大切さを知り、進んで話し合おうとしている。

(2) 話す・聞く能力

◎話し合いの見通しをもち、目的や順序を理解しながら、話題に沿って話し合うことができる。(ウ)

○自分にも似た経験がないかを考えながら聞くことができる。(イ)

(3) 言語についての知識・理解・技能

○語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつ事ができる。(ウ(エ))

4 単元の評価規準

(1) 国語への関心・意欲・態度

・話し合いの大切さを知り、見通しをもって意欲的に話し合いに参加しようとしている。

(2) 話す・聞く能力

・話し合いの見通しをもち、目的や順序を理解しながら、話題に沿って話し合っている。

・友達の体験談を聞くときに、自分にも似た体験がないかを考えながら聞いている。

(3) 言語についての知識・理解・技能

・話し合いに使われている言葉を理解し、正しく使っている。

構成をもとに考えさせていきたい。三つ目は、これまでの学習のまとめであることを意識させ、自分の思いを聞き手の心に届けるために事前に十分に練習をさせたい。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

○小学校生活を振り返り、心に残っている出来事を、聞き手の心に印象付けるスピーチをしようとしている。

(2) 話す・聞く能力

◎小学校生活を振り返り、心に残っている出来事を、聞き手の心に印象付けるスピーチになるように、話の組み立てや発表方法を工夫しながら話すことができる。(ア)

○話し手の伝えたいことは何か、それを伝えるためにどのような発表方法の工夫をしているかに気をつけながら、話の内容を聞くことができる。(イ)

(3) 言語についての知識・理解・技能

○文や文章にはいろいろな構成があることについて理解する。(ア)

4 単元の評価規準

(1) 国語への関心・意欲・態度

・聞き手の心をつかむための方法を理解し、話の組み立てや発表方法の工夫をし、聞き手の心に印象付けるスピーチをしようとしている。

(2) 話す・聞く能力

・聞き手の心に印象付けるスピーチをするために、スピーチ原稿の組み立てを工夫したり、思い出の場面に発表方法の工夫を取りいれたりしながら話している。

・話し手の伝えたいことや思い出の場面にどのような表現方法の工夫をしているか、印象付けるスピーチになっているかを考えながら話を聞いている。

(3) 言語についての知識・理解・技能

・書き出しを結論から、山場から、問いかけから、対比からというようにさまざまな構成から組み立ての効果を考え、スピーチ原稿を書いている。

5 指導計画

《5年生》 (全 7時間 ○印一本時)

次	時	学習活動	国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
第一次	1	○体験談を交流するための学習計画を立てる。	・話し合う話題について決めようとしている。	・教材文やCDから話し合いの手順や方法を理解し、話している。	・新出漢字を正しく読んでいる。
	2	○見通しを持って話し合う。	・何をどんな順序で話し合うか意識して、自分の考えを話そうとしている。	・自分が体験した事が相手に正確に伝わるように話している。	・話し合いに適した言葉を正しく使っている。
第二次	3 4	○話し合いで出された意見を分類・整理する。	・話し合いで出た意見を進んで分類・整理しようとしている。	・出し合った体験について、共通点をもとに分類・整理している。	・意見を見やすくまとめている。
	5 ⑥	○分類・整理されたものから意見をまとめる。 ○スピーチ練習をする。	・話し合いから進んで意見をまとめようとしている。 ・意欲的に練習に取り組んでいる。	・整理した意見を分かりやすく話すために工夫している。	・整理した意見を見やすく、まとめている。
第三次	7	○学級で意見交流会をする。	・感想や意見を意欲的に発表している。	・自分の感想や意見を発表している。 ・友達からの感想意見をきちんと聞いている。	・表現したり、理解したりするために必要な語句を増やしている。

次	時	学習活動	国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
第一次	1	○教材文を読み、学習内容や方法を知り、学習のめあてを持つ。	・学習内容を知り、心に残った出来事を考えようとしている。	・学習のねらいや題材の選び方を理解し、自分らしい題材を考えている。	・新出漢字の読みや語句の意味について理解している。
	2	○題材を決定し、スピーチの構成を考える。	・自分らしい題材を決めようとしている。 ・聞き手の心に印象つけるスピーチになるように、スピーチ原稿の構成を考えようとしている。	・自分らしさが表れるような題材を決定し、スピーチ原稿の書き出しの工夫や話す順序などの構成の仕方を理解している。	・文章にはさまざまな構成があることを理解している。
第二次	3 4	○スピーチ原稿を書く。	・スピーチ原稿の構成をもとにスピーチ原稿を書こうとしている。	・構成の効果が表れるように、聞き手を意識しながら原稿を書いている。	・伝えたい事がよく分かるような文末表現について理解している。
	⑤	○スピーチの効果的な発表の仕方を考える。	・聞き手に印象つけるような発表方法の工夫をスピーチ原稿に書き加えようとしている。	・効果的に伝える方法を理解し、自分のスピーチ原稿に書き加えている。	・適切な声の大きさや速さなどを理解している。
	6	○スピーチ練習を行う。	・友達のアドバイスをもとに発表方法を見直したり、言葉遣いに気をつけて話そうとしている。	・友達のアドバイスをもとに発表方法を見直したり、効果的な発表になるようにスピーチ練習をしている。	・適切な声の大きさや速さなどで話している。
第三次	7	○発表会を行う。	・発表会への意欲をもち、聞き手の心に印象付けるスピーチにしようとしている。	・聞き手の心に印象付けるような発表の工夫を取り入れたスピーチをしている。	・適切な声の大きさや速さなどで話している。

6 本時の学習

《5年生》

(1) 本時の目標 ○自分の意見を順序よく、分かりやすくまとめ、発表練習をすることができる。

(2) 本時の評価規準

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する児童への支援 (C)
自分の意見を順序よく分かりやすくまとめ、予防策を聞く人に的確に伝わるように発表練習をしている。	自分の意見をまとめ、予防策を発表するために練習がしている。	個々の事例をどのようにすれば予防できるか考えていく。 一つの事例に対し、その予防策と考えいく中で似ている予防策がないか考えていくようにする。

(3) 仮説にかかわって

仮説2にかかわって、一人学びの最後の場面で、自分の意見を分かりやすくまとめることができたか、始めに自己評価を行い、次に視聴覚機器を使うようにしたい。また学び合いの場面では、自分の意見が聞く人に分かりやすく伝わるかをサポートの先生とともに学習することで、確かめていくようにしたい。

《6年生》

(1) 本時の目標 ○自分のスピーチで「伝えたいこと」が聞く人に伝わるための効果的な発表の仕方を考え、スピーチをまとめることができる。

(2) 本時の評価規準

十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する児童への支援 (C)
自分のスピーチに合う、効果的な方法を考え、スピーチ原稿をまとめている。	効果的に伝える方法を理解し、その方法を自分のスピーチ原稿に書き加えている。	発表原稿にどの方法が適切か試行錯誤しながら考えていく。 どのような発表の仕方が自分の考えている発表に近いか考えていくようにする。

(3) 仮説にかかわって

仮説2にかかわって、児童が自主的に進められるようにするために、学習リーダーを活用していきたい。また、間接指導時や学び合いの場面で、学習リーダーが適切に学習を進められるように学習シートを工夫していきたい。

(4) 展開

段階	5 年		形態	6 年		段階
	○指導上の留意点 (評価) ●支援	学習活動		学習活動	○指導上の留意点 (評価) ●支援	
課題把握 5分	○学習の計画表をもとに確かめる。 ○今日の学習は、失敗の予防策を考える事を確認する。	1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習課題を確かめる。		1 前時の学習を振り返る。 2 本時の学習課題を確かめる	○学習の計画表をもとに確かめる。 ○今日の学習は、よりよいスピーチをするために教えあう事を確認する。	課題把握 5分
		自分の意見を分かりやすくまとめ、発表しよう。		聞く人の心に残るスピーチにしよう。		
課題追求 35分	○よりよい発表のためのポイントを確かめる。 ●掲示物などをもとに確認できるようにする。 ○学習の進め方を理解させる。 (関) 自分の意見を分かりやすく発表しようと積極的に発表しようとしている。 (S) 発表練習を適切に行えるようにサポートしていく。 ○発表の様子をビデオに撮り、観点にしたがって自己評価していく。 ●評価する時は、重点となる項目を決め評価するようにする。 (話) 自分が考えた予防策を、話題に沿いながら、相手に分かるように正確に話している。 (s) 発表を聞き、観点に従い評価する。 ●修正があるときは、アドバイスをする。	3 分かりやすい発表にむけてのポイントを確かめる 4 予防策の発表練習をする。 ○自分の考えた予防策の練習をする。 【一人学び】 分かりやすい、発表をめざし、原稿の修正や読みの練習をする。 5 発表の様子を記録し、よりよい発表の仕方をめざし練習する。 6 予防策の発表をする。 ○自分が考えた予防策を発表する。 【学び合い】		3 よりよいスピーチにむけてのポイントを確かめる。 4 よりよいスピーチに向けて、話し合う。 ○お互いにアドバイスをし合う。 【学び合い】 5 自分の原稿に修正や書き込みをする。 ○原稿の修正をする。 【一人学び】 6 アドバイスをもとに、練習をする。 ・練習をビデオテープに録画する。	○よりよいスピーチをするためのポイントを確かめる。 ●掲示物などをもとに確認できるようにする。 ○スピーチの構成について2～3種類の形を用意してどの形がよいかを話す。 ○聞き手は、どの形のスピーチがよいと思うか、根拠をつけて意見を述べる。 (話) 友達へのアドバイスを考え、進んで話している。 ○アドバイスをもとに、スピーチの修正と練習を行う。 (書) アドバイスをもとに原稿に修正をしているか。 (話) アドバイスを受け、練習を進んで行っているか。 (s) アドバイスをもとに、修正されたスピーチ原稿ができているかサポートする。 ○練習の様子をお互いにビデオに撮りあう。 ○廊下に設置したビデオコーナーで撮るようにする。	課題追求 35分
まとめ 5分	○発表の様子を振り返り、学習のまとめをする。	7 学習のまとめをする。 ○自己評価をする 8 次時の学習内容を確認する。		7 学習のまとめをする。 ○自己評価する 8 次時の学習内容を確認する。	○話し合いの様子を振り返り、学習のまとめをするようにする。	まとめ 5分

『失敗』をめぐって」

自分の意見を分かりやすく発表しよう

◎失敗を予防するための話し合いの順序 (学習の計画)

- 失敗の体験を集める
- 失敗の原因を分類する
- 失敗の予防策をまとめる
- 予防策の発表練習をする
- 発表し、意見交流会をする

◎よりよい発表のポイント

○話し方を工夫する

- ・ 声の大きさ
- ・ 話す速さ、
- ・ 間の取り方
- ・ 調子 (強弱)
- ・ 表情、目線
- ・ 場に合った (3の) 声で
- ・ 聞く人を考えて
- ・ 自分の考えをより伝える

学習の進め方

(1) 自分が考えた予防策の発表練習をする

(2) 練習がしっかりできているか、ビデオを使い確かめる。

	練習のポイント	自己評価 (◎―○―△)
③	②	①

(3) サポートの先生を相手に実際に練習して見ましょう。
そして、練習の課題を評価してもらいましょう。

(4) 学習の振り返りを書きましょう。

「今、わたしは、ぼくは」

聞く人の心に残るスピーチにしよう

◎話し合いの順序

- 伝えたい事を決める
 - ・ 忘れられない出来事
 - ・ 心に残る言葉
 - ・ 将来の夢
- 構成の工夫を考える (初め・中・終わり)
 - はじめ・・・資料、会話、引用、問いかけ、
 - なか・・・資料
 - おわり・・・資料、会話、引用、結論
- 話し方を工夫
 - ・ 声の大きさ、調子
 - ・ 話す速さ、間の取り方

◎話し合いをするポイント

○話し手・・・聞いてもらいたいところは、どこか

①構成の工夫

②資料の必要性

○聞き手・・・話の中心が伝わってきているか
どのような構成が印象強く伝わってくるか
友達の聞いてもらいたい所への
アドバイスを言えるように聞く